

26 大内盛見

京が惜しんだ
禅文化・武力の担い手

もりみ・もりはる・もりあきら

応永の乱で大内義弘が堺で敗死、降伏した弟弘茂は大内氏家督継承者とみなされ、足利義満から、国元で抵抗の姿勢をみせる兄盛見の討伐を命じられます。一旦豊後に逃れた盛見は、長府下山城の戦いで弘茂を討ち、実力をもち、周防・長門両国の支配権を得ました。幕府はなお盛見の兄道通らを支援して盛見打倒を図りますが、道通も破れ、盛見の防長守護職を追認することとなります。盛見は豊前守護職も回復しました。山口に凱旋した盛見は、兄義弘の菩提を弔うために義弘の菩提寺であった香積寺の境内(現瑠璃光寺の地)に五重塔の建設に着手しますが、その完成を見ることはありませんでした。



大内盛見像(洞春寺蔵)

義満の死後、将軍義持の家督相続を祝うため盛見は上洛し、在京は15年に及びます。「大内屋形」は下京の六条にあり、広い庭園を備え、義持も度々訪れました。将軍を中心とする文化サロンに加わり、五山の禅僧たちと交流を深めます。

九州で少弐氏・菊池氏が挙兵、対処するため盛見が京を離れる際には惜しまれました。軍事力でも将軍を支えた盛見は、中央政界で大きな存在となっていました。盛見は少弐氏を破り、以後北部九州経営に力を注ぐこととなります。

新将軍義教は、遣明船復活を目指し対外交易の要衝博多をもつ、筑前国を幕府直轄地として盛見を代官に任じました。幕府は、西国支配の核となる存在として盛見を重用しました。

大友氏との戦闘も始まり、幕府は和睦を図ろうとしますが、筑前怡土郡萩原(現福岡県糸島市)での少弐・大友・菊池軍との戦いで盛見は討死、京都では名将の死をいたみ、九州での大内勢は撤退を余儀なくされます。

豊久丸の悲劇

義弘戦死後、子の持世は幼少のため、弟たちが骨肉の争いを繰り広げることになりました。その経験から盛見は、実子豊久丸が成長した後に家督争いを招きかねないことを案じ、鱈石川(榎野川の鱈石近辺)での舟遊びの折、豊久丸を川に落とすたといわれます。盛見は亡骸が見つ

かった下流の地に葬り、菩提を弔うため妙湛寺(小郡下郷)を建立したと伝えられます。

菩提寺・国清寺

国清寺は盛見が天下泰平の祈願所として、父弘世、母、兄義弘の菩提のため建立し、後に盛見自身の菩提寺になった寺院で、今の洞春寺の地にありました。

その遺構である山門は彫刻のない大きな板臺

また股をもち、質実で力強い禅風山門の特色を伝えています。このような四脚門としては珍しく、柱の配置が正方形に近いものになっています。



大内盛見の墓
泉蔵寺(粕屋町)
戦死した盛見を家臣が葬ったと伝わる



大内盛見の墓
(洞春寺)



二丈岳方面(福岡県糸島市)
二丈岳城をめぐる戦いで盛見は戦死した



千人塚(福岡県糸島市)
合戦での戦死者を祀る首塚と伝わる



洞春寺山門
(山口市)

園城寺一切経蔵
(大津市)



大蔵経の輸入と一切経蔵

大内氏は朝鮮王朝にたびたび貴重な大蔵経（仏教經典の集大成）を求めました。将軍に次ぐ頻度で、特に盛見の時には5、6部獲得しており、領国内の寺社等に寄進して求心力を高めました。

国清寺にも大蔵経を収めた一切経蔵がありましたが、1602年毛利輝元が移築・寄進し、園城寺（滋賀県大津市）に現存しています。堂内に一切経（大蔵経）を収める回転式の八角輪蔵があります。盛見期の建築とみられ、山口地方独特の装飾意匠が施されています。



洞春寺に残る
八角輪蔵の礎石



八角輪蔵（大津市）

肥中街道

山口・道場門前と肥中浦（下関市豊北町）を結ぶ街道。ほぼ今の国道435号にあたるものと思

1399	応永の乱 兄義弘戦死
1401	第1回遣明船派遣 下山城で弟弘茂を討つ
1404	この頃幕府から周防・長門守護職追認 国清寺創建 興隆寺本堂供養会
1405	九州出兵、少弐・菊池連合軍を破る 嫡男豊久丸が水死したと伝わる
1406	この頃までに豊前守護に任じられる
1408	足利義満死去
1409	上洛
1410	「蔵乘法数」刊行
1418	宇佐宮再建着手
1425	九州に下向、少弐氏を破る
1428	足利義持死去、義教が将軍となる
1429	筑前国代官に就任
1431	少弐氏らとの戦いで討死（55歳）

われます。大内氏の時代、関所が置かれた肥中浦は朝鮮貿易の要港で、大内氏の舟倉があったという伝承もあります。大内義隆が陶晴賢に攻められた際の逃走ルートは、岩永（美祢市秋芳町）まで肥中街道を通りました。

山口七夕ちょうちんまつり

盛見が先祖の冥福を祈り、七日夜に笹竹の高灯籠を灯し、精霊の迎え火としたのが、町の家々に広まったと伝えられています。明治の新聞も祭りのにぎわいを報じています。

8月6、7日の両日、竹竿につるした鈴なりの紅ちょうちんにひとつひとつ火を灯すと、山口市中心商店街に火のトンネルが現れ、幻想的な美しさに包まれます。



(雨村明倫所蔵)